

「大きな愛を、たくさんの優しさを、ありがとうございます」

若い頃ラグビーに汗を流してきた夫にとって、高校時代花園に出場したというのが、何よりの誇りでした。長いブランクの末再開したのは、四十を過ぎた頃からだったでしょうか。

毎週日曜日の午前中、スクラムを組み練習に励む姿が見られたものです。頑強な体に似合わず、その心根は優しく穏やかで、冗談を言って周りを和ませるような愉快な一面もありました。

思わぬ病が見つかったのは、昨年冬。約四ヶ月の入院生活を経て、いち時は回復したかに思えましたが、残念ながら永久の別れを迎えてしまいました。いつも私や娘を大きな愛で包んでくれたこと、同居している私の母を実の親のように大切にしてくれたこと……過ぎし日を偲べば、いくら感謝しても足りません。どうかこれからは、自由の翼を広げ、思う存分好きなことを楽しんで欲しいと願っています。

空の色に秋の気配を感じる平成二十五年九月四日

夫永沼 勉は、五十六歳にて静かに生涯をとじました。皆様とのご縁に恵まれ、幸多き人生を歩ませていただきました。夫に代わり、生前のご厚情に深く感謝申し上げます。

本日はご会葬くださり、誠に有難うございました。略儀ながら書中にてお礼申し上げます。

平成二十五年 九月七日(通夜式)

九月八日(告別式)